平成12年（2000年）10月31日

廃棄物学会ニュース

No.59

The Japan Society of Waste Management Experts　廃棄物学会

APLAS Fukuoka2000 盛大に開催!!

アジア太平洋廃棄物埋立会議が、このほど福岡市で平成12年10月11日～13日の3日間開催された。この会議は、平成８年の第７回廃棄物学会研究発表会の国際シンポジウムにおいて、２１世紀の適切な廃棄物処理システムの確立に向け、「アジア太平洋地域の継続的なパートナーシップとネットワークの構築を図る必要がある」という福岡アピールが採択されたことを受けたものである。会議には海外13ヶ国（韓国、中国、マレーシア、シンガポール、ネパール、フィリピン、パキスタン、ガーナ、イタリア、ドイツ、デンマーク、スイス、スウェーデン）から63名、国内から156名合わせて219名の参加であった。

会議初日及び二日目に、サルディニア国際廃棄物処理処分会議（ヨーロッパを中心に２年に1度開催されている世界一の規模の廃棄物処理処分会議）主催者の一人である、イタリアのパドパ大学教授ラファエロ・コス氏より“今後の埋立処理処分技術の動向”についての特別講演が、また中国を代表して中日環境保護中心総工程師全浩氏より“中国における廃棄物処理処分の現状と国際協力”についての基調講演が、そして、主催国を代表して、本会議の実行委員長である、福岡大学教授花嶋正孝氏より“日本の廃棄物処理処分技術の変遷と現状”についての基調講演があった。

口頭発表は、セッションA：廃棄物管理、セッションB：浸出水処理、セッションC：埋立地設計・運転管理、セッションD：環境保全・モニタリングの5テーマで32編の発表があり、活発な意見交換が行われた。また、二日目のポスター発表は、口頭発表終了後の午後5時半から開催されたが、軽食をとりながら和やかに、また活発に発表者との情報交換が約２時間行われた。

クロージングセレモニーでは、10月12日に開催された顧問会議より提案された“アジア太平洋廃棄物埋立会議（ＡＰＬＡＳ Ｆｕｋｕｏｋａ2000）からのアピール”が採択された。その中で本会議とセミナー／ワークショップを次年度以降もアジア太平洋地域に於いて定期的に継続して行うことが確認され、2004年には再び日本に於いて会議が開催されることになった。

三日目には福岡市清掃施設（２コース）及び福岡大学水理衛生工学実験室施設の見学が、会議終了後の四日目には北九州エコタウン施設見学が行われた。いずれのコースでも定員５０名を超える参加者があり、連日の会議参加にもかかわらず、多くの質問と熱心な見学で時間が足りないくらいであった。

我が国での会議の開催は、発展途上段階にある国々にとっては参加費及び渡航・滞在費共々高額なものであったが、アジア地域の参加者はいずれも自国、あるいは個人の費用で参加しており、いかに廃棄物問題がこれらの国々にとって緊急で、かつ、重要な問題であるかを再確認できた。また、今回参加できなかった国々にも会議への参加を拡大し、真のアジア太平洋地域の情報交換の場として機能させるために基金の設置や開催地の検討等の必要性を感じさせる会議でもあった。パドパ大学のコス教授からはサルディニア国際廃棄物処理処分会議との連携をさらに深め、情報交換の輪の拡大と廃棄物処理処分技術の発展を図りたいとの特別の申し入れがあった。

最後に今回予想以上の成果を挙げ、成功裏に閉会することができたのも、一重に、会議の開催に賛同し、ご支援頂いた各団体、並びに当日運営スタッフとしてボランティアでお手伝いいただいた方々のお陰と感謝すると同時に、真にアジア地域に根付いたＡＰＬＡＳの益々の発展を期待している。

（松藤康司 記）

▼ 開会式（10 月11 日）

中国・四国地区連絡会設立総会及び第１回セミナー開催報告

平成12年９月30日(土)に岡山大学大学院自然科学研究科棟にて、廃棄物学会中国・四国地区連絡会の設立総会及び第1回セミナーが開催された。

当日は、休日と朝からの悪天候が重なったにもかかわらず、中国・四国各県から設立総会50人、セミナー72人の参加があった。

設立総会においては、まず、発起人代表である田中勝岡山大学教授から、開会の挨拶に続き設立趣旨・経緯の説明があり、引き続き、小野芳朗岡山大学助教授司会のもと、平成12年度事業計画、平成12年度地区役員、予算案が承認された。

当日、承認された代表及び地区役員は以下の15名であった。

代表：田中勝(岡山大学)

地区役員：青山勲(岡山大学)、綾野克紀(岡山大学)、今岡務(広島工業大学)、岡田光正(広島大学)、小野芳朗(岡山大学)、加瀬野悟(岡山大学)、河原長美(岡山大学)、貴田晶子(広島県保健環境センター)、徳岡広昭(㈱ウエスコ)、西村文武(愛媛大学)、野馬幸生(広島県保健環境センター)、羽原浩史(復建調査設計㈱)、藤原拓(高知大学)、森田啓次郎(岡山県環境保健センター)

（五十音順、敬称略）

また、本年度の主な事業として、第1回セミナーに続き、平成13年1月に地盤工学会との共催による講演会を計画している。

最後に、閉会の挨拶において、河原長美岡山大学教授より、中国・四国地区における廃棄物研究の拠点確立と今後の活動の活性化が提唱され、関西、九州、北海道、東海中部地区に続く５番目の地区連絡会としてのスタートを切った。

設立総会に引き続き「焼却灰の有効利用とセメント事業」をテーマに第１回セミナーが開催された。

本セミナーは、平成12年４月27日(金)に東京で開催された廃棄物学会セミナーと一部重複するものであったが、ダイオキシン類対策特別措置法の施行後、焼却灰の適正処理・有効利用への関心の高さを受けて、中国・四国地区に限らず全国からの参加者があった。

セミナーは、まず、地区連絡会代表であり、廃棄物学会会長である田中勝氏による「廃棄物処理と焼却灰の有効利用」と題して、最終処分場の設置困難性から、埋立処分量最小化へのシステム作りと焼却灰の有効利用の必要性が解説された。

２番目の講演として、太平洋セメント（株）の尾花博氏による「エコセメントの現状について」と題して、エコセメントの開発に携わった経験に基づき、有用金属の回収、環境保全性等、及びエコセメント事業の現状について解説があった。

次に、「各国における安全性評価方法」と題して、京都大学環境保全センターの水谷聡氏により、各国における安全性評価における溶出試験の種類と違いを中心とした講演が行われた。

最後に、広島県環境保健センターの貴田晶子氏より、「一般廃棄物の溶融スラグとエコセメントの安全性評価」と題して、溶融スラグ、エコセメントの具体的な溶出試験結果が提示されるとともに、有効利用と安全性の確認に向けた今後の課題が示された。

いづれの講演も、実例に基づいた興味深いものであり、各講演の後には、活発な質疑応答が行われた。

中央に比べて、廃棄物に関するこのようなレベルの高いセミナーを聞く機会が少なかった中国・四国地区において、環境作りの受け皿としての礎が築けたことに大きな意義を感じた。

（宗村邦嗣 記）

発起人代表・田中　勝氏　▲　　▼　司会の小野芳朗氏

□■□ 企画委員会 ■□■

平成12年度シンポジウム □ 2000年11月29日

「循環型社会への道程を探る」開催のご案内

ー課題の整理と掘り下げ作業のためにー

本年、循環型社会を目指して関連する法律が相次いで整備され、新しい枠組みの中で本格的な取組みが始められようとしています。しかしながら、廃棄物の減量効果やエネルギー問題などさまざまな課題が指摘されています。また、如何にリサイクルを進めるべきかという問題もあります。真の循環型社会を形成するために、これらの課題を整理し、その道程を探るシンポジウムを開催いたします。皆様のご参加をお願いいたします。

開催日時：平成12年11月29日（水） 13:30～16:00
（ウエステック第二日目）

開催場所：日本コンベンションセンター（幕張メッセ）
国際会議場

プログラム：

（第1部） 『循環型社会をめぐる状況と対応』

コーディネーター基調講演

「循環型社会形成推進法をめぐる論点」

小林康彦氏（(財) 日本環境衛生センター）

パネリスト報告

「日本経済とのなじみ

-循環型経済は市場経済原理に馴染むか」

上野 明氏（(財) 容器包装リサイクル協会）

「資源・エネルギーの視点から見た循環型社会

-循環型社会形成推進法は省資源省エネルギーをもたらすか」

安井 至氏（東京大学生産技術研究所）

「有害物質管理と循環型社会

-有害物質管理の立場から循環を考える」

酒井伸一氏（京都大学環境保全センター）

（第2部） 『討論』

参加費：正会員及び公益・賛助会員所属；5,000円、
学生会員；2,000円、非会員7,000円

申込方法：所定の申込書（下記申込先に請求もしくは http://www.wastec.gr.jp/haikibutu/index.htm からダウンロード）に記入の上、ＦＡＸで申込。

申込先：第4回日本廃棄物会議実行委員会事務局
〒104-0045
東京都中央区築地1-13-13 北水ビル8F
Tel.03-5565-0531 Fax.03-5551-9495

□■□ 関西地区連絡会 ■□■□

関西地区連絡会技術セミナー 2000年12月５日

「建設廃棄物のリサイクル-新たなる資源の創造」開催のご案内

大量に排出される建設廃棄物については、木材、コンクリート、アスファルトの３種類の産業廃棄物を対象に、現場での分別解体と再資源化・減量化を義務づける「建設工事に係わる資材の再資源化等に関する法律」が制定され、2002年には再資源化が義務づけられます。それに伴い、中間処理や再資源化施設の整備が必要になります。

そこで、今年新たに稼働した最新の適正処理・再資源化施設の見学と、「建設廃棄物のリサイクルの現状と課題」についてのセミナーを開催いたします。会員各位の積極的な参加をお願いいたします。

開催日時：平成12年12月５日（火） 10:00～16:30
JR 山陽本線・山陽新幹線西明石駅西出口改札9:30 送迎バスにて出発

開催場所：施設見学 10:00-12:00；（株）環境保全センター
（神戸市西区神出町）
セミナー13:30-16:30；西神プレンティーホール
（神戸市西区・市営地下鉄西神中央駅すぐ）

プログラム（仮題）：

「建設系廃棄物のリサイクルの現状と課題」

山田 優氏（大阪市立大学工学部）

「建設廃棄物に関する法律の概要と行政の取組」

高石 悟氏（神戸市環境局産業廃棄物指導課）

「建設廃棄物発生側のリサイクル推進への取組と課題」

小川次朗氏（(株) 鴻池組本社管理本部安全環境部）

「建設廃棄物の処理・リサイクルの現状と課題」

大森繁夫氏（（株）環境保全センター）

参加費：正会員及び公益・賛助会員所属5,000円、
学生会員2,000円、非会員7,000円

申込方法：氏名、住所、電話番号を記入の上、***往復ハガキ***で申込。**必ず返信部分の宛名も記入。**（先着１００名）

申込先：廃棄物学会関西地区連絡会事務局　高田・片桐

〒530-0041　大阪市北区天神橋 3-6-26　扇町ﾊﾟｰｸﾋﾞﾙ5F

（財）廃棄物研究財団　大阪研究センター気付

Tel.06-6354-5028　　Fax.06-6354-5029

□■□■　年会委員会　□■□■□■□■□■

第11回研究発表会近づく!!

2000年11月8日(水)～10日(金)

第11回研究発表会開催まで、残すところ1週間強となりました。

現在、地元北海道の実行委員会及び幹事会が着々と準備を進めています。

参加予定の皆様には、以下の事に留意してご来場下さいますようお願いいたします。

1．大会期間中の会場への連絡は下記へどうぞ。
　携帯電話：　090-2878-9296　　（大会事務局）

2．大会会場には荷物をお預かりする場所はありません。
　大きな荷物は予め宿泊施設などに置いてからご来場下さい。

3．講演論文集は非常に重量があります。持ち運び用のかばん等をご用意下さい。なお、総合受付にて袋の販売（\100）もあります。

4．懇親会の送迎バスの発車場所が、参加案内の地図内で記している場所から変更となりました。詳細は、総合案内の掲示板をご確認下さい。

5．事前の参加申込をした方で参加費の入金が確認できた方には、既に参加証を発送完了しております。大会当日にこの参加証を必ずお持ち下さい。参加証が無いとご入場いただけない場合があります。

6．事前の参加申込をした方でも、期限までに参加費の振込をされていない方については、事前申込が無効となります。改めて当日受付をご利用下さい。

7．当日受付をされる方は、参加費について釣銭の無いように予めご用意下さい。また、ご自身あるいはご所属団体の会員番号（9ケタ）を控えておいていただくと手続きが迅速に行えます（申込書に記入していただくため）。

8．11月7日（火）～10日（金）は、廃棄物学会事務局（東京都港区）は不在にいたします。

会員状況	H12.9.30現在 （　）内は、H12.8.1以降の増減
正会員	3,455 (　39)
学生会員	220 (　8)
外国人会員（DM）	21 (　1)
公益会員	113 (　0)
賛助会員	204 (　0)
計	4,013 (　48)

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第４条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.59 平成12年10月31日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jswme/index.html
古紙配合率100%再生紙を使用しています

【ご　案　内】

○日本エネルギー学会主催・廃棄物学会協賛
シンポジウム（２０００）ガス化技術の新展開
－動き始めた新型ガス化システム－
開催日：平成12年11月15日（木）　10:00～
場　所：全国家電会館（東京都文京区）　５階
参加費：11,000円
問合せ：日本エネルギー学会「ガス化部会シンポジウム」係　Tel.03-3834-6456

○日本機械学会関西支部主催・廃棄物学会協賛
ウィークエンドセミナー２０００
「ＩＴ革命と２１世紀への扉を開く新製品・新技術」
開催日：平成12年11月17日（金）　9:15～
場　所：建設交流館（大阪市西区）　８階グリーンホール
参加費：会員10,000円、学生会員1,000円
問合せ：日本機械学会関西支部　Tel.06-6443-2073

○ミラクルソル協会主催・廃棄物学会後援
平成12年度（第２回）「ミラクルソル工法」技術講習会
開催日：平成12年11月29日（木）　13:00～
場　所：発明会館（東京都港区）　ホール
参加費：無料
問合せ：ミラクルソル協会　Tel.03-5823-6881

○（社）土壌環境センター主催・廃棄物学会協賛
「土壌・地下水汚染対策指針及び運用基準」実務セミナー
開催日：平成12年11年30日（木）　10:00～
場　所：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区）２階小ホール
参加費：7,000円
問合せ：（社）土壌環境センター　Tel.03-3452-2593

○第５回資源循環型生産システムシンポジウム実行委員会主催・廃棄物学会共催
第５回資源循環型生産システムシンポジウム
開催日：平成12年12年14日（木）～15日（金）
場　所：産業技術記念館（名古屋市西区）　大ホール
参加費：無料
問合せ：(財) 名古屋都市産業振興公社産業部内第5回資源循環型生産システムシンポジウム実行委員会事務局　Tel.052-265-2008

☆☆　事務局だより　☆☆

・第11回廃棄物学会研究発表会がいよいよ目前に迫りました。今回は北の大地（北海道大学）で初めての研究発表会です。国際セッションを含めてセッション数50、発表件数437といずれも史上最多を記録しています。廃棄物問題に関し21世紀に向けた活発な討議が行われることでしょう。・容器包装リサイクル法（容リ法）が今年４月より施行されて早や６ヶ月余りが経過しました。しかし全国レベルで見た場合、完全実施には程遠いのが現状のようです。いま大半の自治体が実施を見送っているのは、住民、自治体、生産者が分別・収集・運搬・保管・処理等々に関し従来よりいずれも負担増になることが最大の原因のようです。・限られた「資源」を有効に再利用することを目的として施行された法律ですが、まだまだ社会的には主旨内容の認知度が低いようです。今や「資源」のリサイクル義務は人類誰もが負っていることを深く認識すると共に、容リ法完全実施に向けて何が問題なのかを今回の研究発表会でもいろいろな立場から討議されることを期待します。　（A.N 記）